

SR-S324TC1 V12.02 変更内容一覧

□機能追加

No.	項目	内容
1	証跡管理機能	1. 固定ユーザ名(admin,user)以外の任意のユーザアカウントにてログイン可能としました。任意のユーザ情報は、RADIUSサーバまたは、装置内のローカルDBに登録され、権限クラス(管理者クラス/一般ユーザクラス)は設定により選択可能です。 ※ただし、複数アカウントでの同時ログインはできません。 2. コマンド実行履歴をシスログメッセージに保存可能としました。 3. password admin set、password user set、aaa user passwordコマンドについて対話形式でのパスワード設定モードを追加しました。
2	スタティックARP機能	ARPエントリ情報を静的に設定する機能を追加しました。
3	認証ポートのVLANタグフレーム透過機能	IEEE802.1X認証、Web認証、MACアドレス認証ポートにおいて、VLANタグ付きフレームを認証せずに透過するモードを追加しました。
4	ARP認証機能拡張	認証結果保持可能数を1000に拡張しました。
5	LANインタフェース最大値の拡張	1. IPv4/IPv6インタフェース数の最大値を100へ拡張しました。 ※ただし、IPv4/IPv6ルーティング機能には対応していません。 2. IPv4スタティック経路登録数の最大値を200に拡張しました。 3. IPv6スタティック経路登録数の最大値を200に拡張しました。
6	二重化電源RAS機能強化	電源二重化時、冗長電源と本体を結ぶケーブルが切断された場合のエラー検出を可能としました。

□修正内容

No.	影響範囲	内容
1	V10.01～V12.01	clear logging error コマンドが実行されると、装置内に記録されているFANや電源モジュール等の外的要因でハードエラーとなりうるハードエラーログが消去された後に、消去されたエラー監視が再開される。reset clear コマンドもclear logging error コマンドと同様動作を実行することになっているが、ハードエラーログは消去後、不具合によりエラー監視が再開されない。
2	V10.01～V12.01	saveコマンドを実行すると、CF上の構成定義ファイルが削除されることがある。
3	V10.01～V12.01	1Gbpsポートをツイストペアケーブルで相手装置と接続した状態で、ケーブル接続ポートに対し、ether startup offline コマンドを設定しsave後、resetまたは電源OFF/ONにより装置を再起動させると、自装置の当該ポートが閉塞状態なのに相手装置がリンクアップ状態となる場合がある。
4	V10.01～V12.01	コンソールあるいはsshでログインし、コンソールからキー入力を伴うコマンド(telnet)を実行するとシステムダウンする場合がある。
5	V11.00～V12.01	多数の異なる宛先に対する自発パケットが短時間に集中して発生し、かつ自発パケットと同じ宛先へのパケットの受信および転送動作が競合すると、装置のシステムダウンまたはシステムハングが発生する場合がある。
6	V10.01～V12.01	SNTPサーバ機能を有効にした状態で運用中に、要求メッセージ以外のSNTPメッセージを受信すると、不要な応答メッセージを送信してしまう。
7	V10.01～V12.01	STP状態がBLOCKINGのポートで制御フレームを受信する場合がある。ただし、本事象による顧客通信への影響なし。
8	V11.00～V12.01	ssh/sftpの接続を繰り返していると接続応答がなくなり、ssh/sftpでログインできなくなる場合がある。なお、本事象はコンソール操作には影響ない。
9	V10.01～V12.01	IGMPスヌープでIPヘッダが小さいパケットを受信した場合の統計情報が正しくない。